

宮城県加美町

【活動概要・効果】

☆地域資源を活用したソフト事業の展開と多彩な交流施設の整備

○多様な地域資源を活用し、都市と農村の交流の拡大を図ろうとファミリー農園の開園や都市と農村の交流型イベント「やぐらいの里まつり」を開催。都市部の中学生の体験学習受入なども実施し、グリーン・ツーリズムを推進している。多様化するニーズに応える施設として、「体験する」「遊ぶ」「食べる」などができる交流施設を整備している。

☆グリーンツーリズムの推進により、地元での都市と農村の交流事業を実施するだけでなく、都市部でのイベントへも参加するなど地域間交流が活発になり、また、高齢者が持つ経験や技術を活用できる場の創出にも貢献している。

☆温泉、宿泊、体験施設、リゾート施設等の整備により、子どもから大人まで幅広い観光客が訪れる町となった。地域資源を活用したイベントとの相乗効果により観光客入込数が年々増加し、平成7年度の約47万人から平成18年度は約94万人となっている。交流施設整備は雇用の場も創出し、経済的な活性化にも寄与している。



やぐらい土産センター

《人員確保での工夫・苦労》

私たちの直売所は15年が経過し、組合員がかなり高齢化し、60歳以上の組合員が80%程度ですが現役で頑張っています。これは50歳以下の組合員にとってはとても良い刺激になります。

組合の役員は50歳～60歳代で8名（理事6名、監事2名）。

選出方法は地区を16に分け、各地区から1名を代表に役員を選考委員になっていただいている。

地区委員は最低2年間、地区のリーダーとして毎月の会議に出席し、地区を理解してもらっています。

《活動資金確保での工夫・苦労》

組合の運営費として、組合員の売上から販売手数料を徴収している。手数料は、1ヶ月分の売上額から野菜や山菜類であれば10%、加工品や手芸品、工芸品などは14%を差し引き、残りの売上金額を翌月の10日に組合員へ支払う。売上金額から差し引く事により、確実に組合費を徴収できる。

直売所での売り子なども当番制で実施しており、その日当や役員報酬などは組合員の口座に振り込むようにしている。

【現場の声】

町の農林産物直売所を「さんちゃん会」という任意団体で利用してきたが、法人化の必要性を感じ組合へ提案。“みんなで「経営」する”という意識が農産物の生産にも反映され、売上も右肩上がりとなった。

販売価格は、1袋1包み100円以下にはせず、買いやすい価格にこだわっている。

野菜類の陳列は、原則としてコンテナ1つが組合員の持分。また、四季それぞれの旬の物は特設コーナーを設置。特に、山の幸（キノコや山菜）はコーナーを常設している。

旬の物を安く売る。何が一番売れるか組合員が認識すること。宣伝広告を兼ねて仙台圏に目を向けて出張販売も行っている。

売れ残りの処理は、組合員一人一人が自己責任において行い、お客様に迷惑をかけた際は倍返しでお詫びをする。品物には、生産者の情報が表示され、品物を購入したお客様からの苦情は施設事務局、組合員で情報を共有し、同じ失敗をしないように注意している。

※色々な事を組合員に広報紙や掲示板に書いてお知らせをすることがとても大切！！

～農事組合法人 やぐらい土産センター
さんちゃん会さん



収穫祭